取扱説明書

スキューズ・ディスポーザー

モデル　F－１３

www.skewes-ec.com

もくじ

1．ディスポーザの概要 ・・・・・・・・・・・ 1
2．ディスポーザの構成 ・・・・・・・・・・・ 2
3．安全上のご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・ 3
4．使用上のご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・ 6
5．投入物についてのご注意 ・・・・・・・・・ 7
6．運転のしかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
7．「ピピピピピ・・・」と音が鳴って
動かないときは・・・ １３
8．ディスポーザのお手入れ ・・・・・・・・ １６
9．故障の原因と対策 ・・・・・・・・・・・・・１９
ディスポーザの仕様 ・・・・・・・・・・・・２１

1.ディスポーザの概要

【ディスポーザとは】

ディスポーザは水を流しながら生ごみを粉砕し、排水流を使って、粉砕した生ごみを押し流します。

【ディスポーザ設置について】

ディスポーザは以下の要件を満たす場合のみ取り付けが可能です。

1.『ディスポーザ単独設置が認められている地域』
ディスポーザの単独設置が認められている地域は限られています。取り付けにあたっては、事前に自治体の下水道担当窓口へ確認が必要となっています。また、ディスポーザ設置後は、排水管の洗浄（1回以上／年）をおすすめしています。

2.『上記以外の地域』
ディスポーザの単独では使用することができません。所轄の下水道局の設置許可を受けた排水処理装置との併用でのみ使用することができます。なお、排水処理装置は維持管理業者による保守点検および水質検査が義務づけられています。
また、排水管の洗浄（1回以上／年）が必要です。

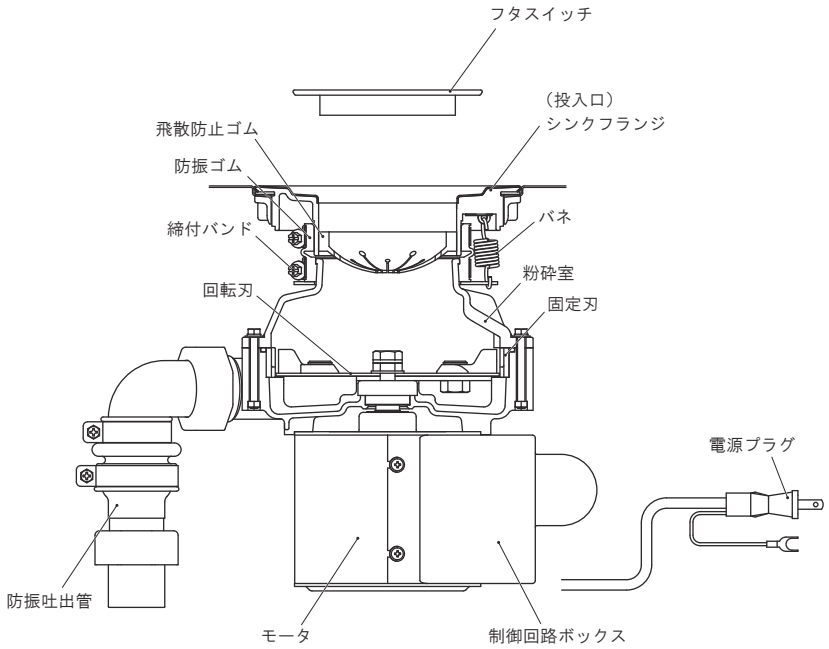
ディスポーザの仕様

型　　式	F-13
運転方式	フタスイッチ運転
取扱液質	水道水（0～40℃）
作動水量	6ℓ/min
設置場所	流し台シンク下
設置方式	吊り下げ式
使用周囲温度	0～40℃
使用周囲湿度	90%RH以下
使用電源	単相100V、50/60Hz
電源容量	15A
電動機形式	単相誘導電動機
極数・定格出力	4極・200W
定格消費電力	388W/378W
定格電流	4.16A/3.69A
運転時間定格	5分
粉砕方式	スイングハンマー方式
粉砕室容量	1.0ℓ
製品重量	7.2kg
保護装置	過負荷保護装置（フタスイッチ復帰式）、マグネット式フタスイッチ

●過負荷保護装置・・・異物の噛み込んだときや、生ごみを詰め込み過ぎたときに作動し、電動機の焼損を防ぎます。

2.ディスポーザの構成

【各部の名称】



付　属　品
・ロックハンドル
・取扱説明書（本紙）

3. 安全上のご注意

●安全のために必ずお守りください●

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られる場所に必ず保管してください。

この「取扱説明書」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示はつぎのようになっています。

表　示	意　　味
⚠警 告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注 意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性または物的損害が想定される内容です。

下に示す表示は「取扱説明書」や製品に表示して、お客様が安全に正しく製品をお使いいただくためのものです。
内容をよく理解して正しくお使いください。

表　示	意　　味
	行ってはいけない
	絶対に分解したり、修理、改造は行わない
	必ず実行する
	アース線を必ず接続する
	必ず電源プラグをコンセントから抜く
	水場で使用しない
	濡れた手で触れない
	特定の場所に触れない
	外部の火気によって製品が発火する可能性あり

故障や異常があるままでディスポーザを使い続けないでください。

●次のようなときは、電源プラグを抜き 水 栓を閉めて給水を止めてください。

⚠警告
- ●配管や本体から水漏れしている
- ●異音・異臭がしている
- ●製品が異常に熱い
- ●製品にひびや割れが入っている
- ●製品から煙がでている

●故障したまま使い続けると、火災や感電・室内浸水の原因になります。
●投入禁止ごみを入れてしまった場合は、必ず異音や水漏れなどの異常がないか確認してください。

ディスポーザを使用しないとき、シンク内の水が流れにくい。	ディスポーザの中に生ごみが溜まったままになっている。	ディスポーザの運転を行い、生ごみを処理してください。
	ディスポーザを長期間使用していないため、粉砕室内にごみが溜まっている。	ディスポーザを長期間使用しない場合でも、週に１回程度運転してください。
シンク内に水が溜まって、まったく排水されない。	ディスポーザの中に生ごみが溜まったままになっている。	ディスポーザの運転を行い、生ごみを処理してください。
	強い繊維質の生ごみや貝殻類など、投入してはいけないものを粉砕して、ディスポーザ内、または排水配管に詰まっている。	販売店へご相談ください。
ディスポーザのモータ部から水が漏れている。	ディスポーザの中に生ごみが溜まったままになっている。	パッキン、軸封部などは消耗部品です。販売店へご相談ください。この状態で使用を続けますと、本体の故障の原因になります。

9. 故障の原因と対策

ディスポーザをご使用中に異常が生じた際は、この章をご覧になり処置方法を試してください。
それでも直らないときは、販売店へご相談ください。

症　状	原　因	処　置
ディスポーザが動かない	フタスイッチが確実に入っていない	フタスイッチの「△」印を「▼」印に合わせて入れ直し、左に回してください。
	生ごみの詰め込みすぎ、または異物が噛み込んで、過負荷保護装置が作動している。	噛み込みを解除して、過負荷保護装置を解除させてください。 （☞13ページ）
	電源プラグが抜けている。	ディスポーザの電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	屋内ブレーカーボックスの電源が落ちている。	屋内ブレーカーボックスの電源を復旧してください。
	漏電している。	使用を中止して、販売店へご相談ください。
運転中に異常振動、異常音がある。	金属類やガラス類、プラスチックなどの異物が投入されている。	異物を取り除いてください。
	生のタコやイカなど、処理しにくい生ごみが多量に投入されている。	処理しにくい生ごみは小さく切って少量ずつ、他の生ごみと混ぜて処理してください。
	強固な異物の噛み込みにより、回転刃が変形している。	回転刃の交換が必要です。販売店へご相談ください。
生ごみが粉砕室内に残る。	投入できない生ごみ、または処理しにくい生ごみが多量に投入されている。	投入できない生ごみは取り除き、処理しにくい生ごみは小さく切って少量ずつ、他の生ごみと混ぜて処理してください。
ブザーの音が鳴り止まない。	過負荷保護装置が作動しています。	フタスイッチの「△」印を「▼」印の位置に戻して、ブザーを止めてください。その後、噛み込んでいるものを取り除いて、過負荷保護装置を解除させてください。（☞13ページ）

⚠警 告

アース工事がされていることを確認する

※アース工事は、お近くの工事店に依頼してください。

アース工事がされていないと故障や漏電のとき、感電する原因になります。

電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って引き抜く

コードを引っ張るとプラグやコードが傷んで、火災や感電の原因になります。

電源コード・電源プラグが破損するようなことはしない。傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしないでください。傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

改造・分解・修理は行わない

火災、感電の原因になります。

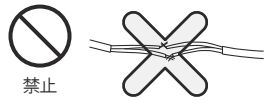
お手入れのときには、必ず電源プラグをコンセントから抜く

けがや感電の原因になります。

濡れた手で、ディスポーザ本体やコントローラに触ったり、電源プラグを抜き差ししない

感電の原因になります。

電源コードは途中で切断したり、接続して延長しない



火災、感電の原因になります。

電源プラグの刃などについたホコリは定期的に取り除き、根元まで確実に差し込む

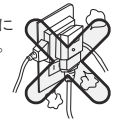
火災や感電の原因になります。プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

ディスポーザ本体、およびコネクタ類に水をかけたり、洗ったりしない

ショートや感電の原因になります。

交流１００Ｖ定格１５Ａ以上のコンセントを単独で使用する

※たこ足配線は絶対にしないでください。

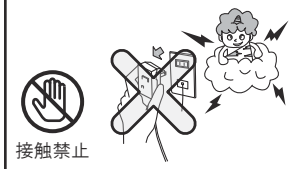


たこ足配線などで定格を超えると、コンセント等などの発熱による火災の原因になります。

タバコなど火の着いたものは絶対に投入しない

本体などの火災・水漏れ・故障の原因になります。

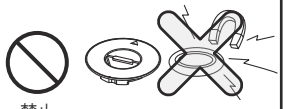
雷が発生しているときは電源プラグに触れない



感電の原因になります。

⚠注 意

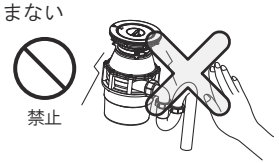
磁石を使用した製品を投入口に近づけない



禁止

ふたスイッチが投入口に収まっていないときに、ディスポーザが作動し、けがの原因になります。

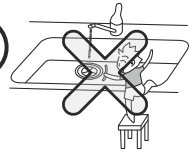
ディスポーザ本体や配線などに力を加えない
また、無理に収納物を押し込まない



禁止

水漏れや故障の原因になります。

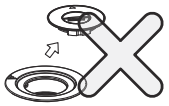
子どもにディスポーザを操作させない
※お子さまが近くにいる場合は、特に注意して使用してください。



禁止

けがの原因になります。

ディスポーザの回転が完全に停止するまで、ディスポーザの中には手などを入れない



禁止

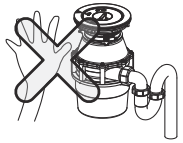
けがの原因になります。

キャビネット内に収納したものがディスポーザ本体に当たらないよう５ｃｍ以上はなす
特に、びん類や陶器類などの割れやすいものはディスポーザ本体の近くには置かない

必ず守る

割れてけがをしたり、異音や振動の原因になります。

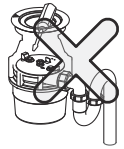
ディスポーザを運転した直後はディスポーザ本体にさわらない



禁止

やけどの原因になります。

ロックハンドル以外を使ってかみ込み解除をしない



禁止

けがや故障の原因になります

シンクやカウンターの上などに不安定なものを置いたまま、ディスポーザを運転しない

必ず守る

振動で倒れて破損したり、けがの原因になります。

ディスポーザの粉砕室内に手を入れるときは、厚手のゴム手袋などを必ず着用する

禁止

けがや故障の原因になります

ディスポーザの運転前、またはディスポーザの運転中に、多量の水を排水しない

禁止

※ディスポーザの運転は、粉砕室内の排水が完全に流れてから行ってください。

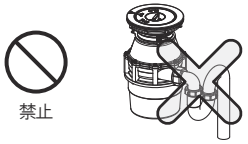
シンクが大きく振動する原因になります。

異常時以外ディスポーザの運転を途中で止めない

必ず守る

配管内にごみが残り配管詰まりの原因になります。

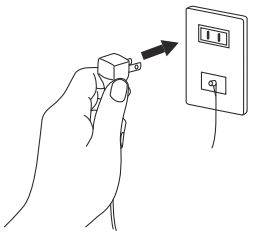
トラップを分解しない



禁止

水漏れの原因になります。

4



ディスポーザの電源プラグをコンセントに差し込んでください。

その他

●ディスポーザ本体（外側）の汚れは、かたく絞った布で拭いてください。

⚠警 告	電動機は濡らさないでください。漏電・感電の原因になります。
⚠注 意	台所用中性洗剤以外は使用しないでください。

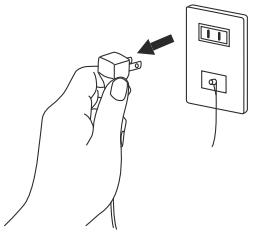
●ディスポーザを使用しないで、生ごみを可燃ごみとして出される場合も、週に１回程度ディスポーザを運転してください。粉砕室内に入ったごみが堆積して通水路を塞ぎ、水が流れにくくなることがあります。

粉砕室内の回転刃や固定刃などの部品はステンレス製ですが、粉砕した生ごみの破片や異付着したまま放置しますと、黄ばみや汚れがこびりついてしまうことがありますが、ディスポーザの性能上、全く影響ありません。

8. ディスポーザのお手入れ

「氷洗浄」によるお手入れを行ってもなお、においや汚れが気になる場合は、下記の手順で内部をお掃除してください。

1

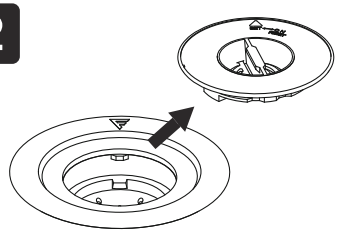


ディスポーザの電源プラグをコンセントから抜いてください。

※このとき氷と一緒に台所用中性洗剤・レモン汁・食酢などを数滴、粉砕室内へ投入すると効果的です。

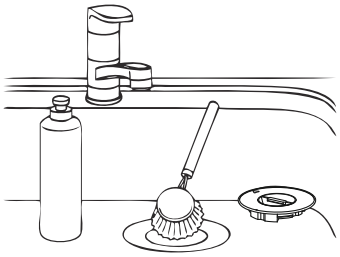
⚠警　告	内部の洗浄をする時は、必ず電源プラグを抜いてから行ってください。 けがの原因になります。

2



投入口からフタスイッチを外してください。

3



柄のついたブラシ等に台所用中性洗剤をつけて、ディスポーザ内部を擦り洗いしてください。

⚠注　意	内部に手を入れるときは、必ず厚手のゴム手袋などを着用してください。 けがの原因になります。

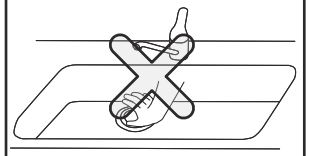
4. 使用上のご注意

●食品・食材くず以外は粉砕しない

故障の原因になります。
（☞7～8ページ）

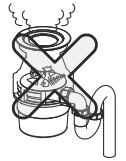
●大量の生ごみを無理に押し込まない

かみ込みや排水不良の原因になります。



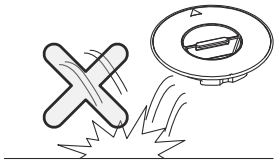
●ディスポーザに生ごみをためたまま長期放置しない

悪臭発生、排水不良、性能低下の原因になります。



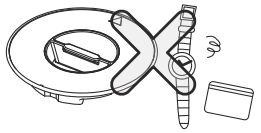
●フタスイッチを落とさない

フタスイッチが破損したり、故障の原因になります。



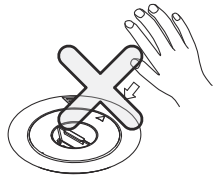
●磁気に弱いもの（磁気カードや時計など）をフタスイッチに近づけない

フタスイッチが破損したり、故障の原因になります。



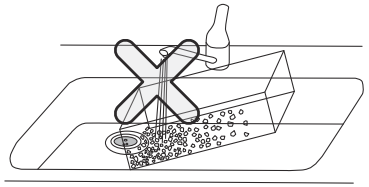
●フタスイッチを誤った位置に無理やり押し込まない

破損の原因になります。
（☞9ページ）



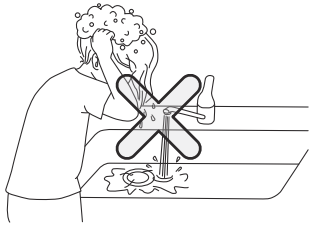
●生き物の水槽のお手入れをキッチンでしない

水槽の敷石などがかみ込んで故障の原因になります。



●髪の毛の洗い水を流さない

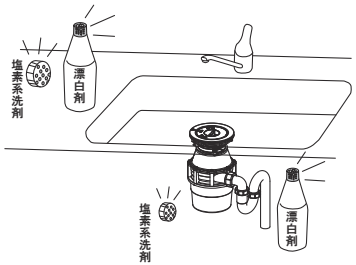
髪の毛がモータにからまり故障の原因になります。



●固形・粉末や高濃度の液体塩素系洗剤を使用しない
また、ディスポーザ周辺に保管しない

水や湿気に反応して発生するガスが金属や樹脂・ゴムなどを劣化させ水漏れや故障の原因になります。保管場所や使用に十分注意してください。その他の洗浄剤・漂白剤は使用上の注意をよく読んでお使いください。

「塩素系ヌメリ取り剤」について
塩素系ヌメリ取り剤は水分に反応して塩素系ガスを発生します。このガスはステンレスなどの金属をさびさせたり樹脂やゴムを劣化させます。誤って入れてしまった場合は、十分な水でよく洗い流してください。



5. 投入物についてのご注意

投入してよいもの

食品くず　野菜くず、果物くず、米飯（炊いたもの）、魚肉、小魚の骨（いわしなど）、手羽元などの鶏の骨、肉類、麺類、パン、揚げ物、茶葉、その他残飯など

処理しにくいもの

以下の生ごみはディスポーザに投入できますが、処理されにくく粉砕室内や排水配管内に残ることがあります。

大きい生ごみ

キャベツ・レタスの大きな葉、グレープフルーツ・スイカ・メロン等の皮など

3cm 程度に細かく切って投入してください。

卵の殻

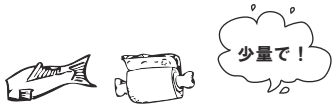
キャベツ・レタスの大きな葉、グレープフルーツ・スイカ・メロン等の皮など

他の生ごみと混ぜて少量ずつ（1 ～ 2 個程度）

柔らかく弾力のある生ごみ

生魚の皮、鶏の皮、軟骨

他の生ごみと混ぜて少量ずつ処理してください。



少量の繊維質の生ごみ

枝豆の莢（片手に軽く乗る程度）など

他の生ごみと混ぜて少量ずつ処理してください

単一生ごみ（米飯のみ、枝豆のみ、卵の殻のみ、茶葉のみなど）を多量に（両手いっぱい程度）に投入しないでください。処理できずに粉砕室内に残ったり、排水配管の詰まりの原因になることがあります。

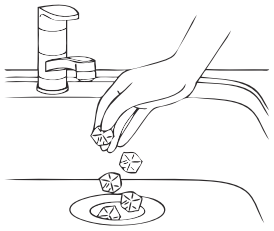
8. ディスポーザのお手入れ

ディスポーザ本体内部のお手入れ

ディスポーザは生ごみを処理する機械です。」粉砕室内に生ごみの破片等が残ったまま放置しますと悪臭の原因になりますので、下記の手順で定期的（週に２～３回程度）にお手入れを行ってください。

ディスポーザ本体内部のお手入れ

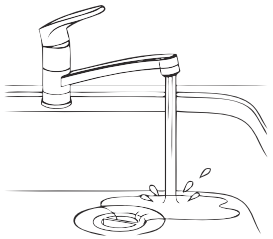
1



氷（キューブアイスなど）を５～６個、投入してください。

※このとき氷と一緒に台所用中性洗剤・レモン汁・食酢などを数滴、粉砕室内へ投入すると効果的です。

2

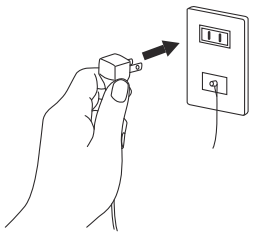


ディスポーザの運転を行ってください。

ディスポーザで細かく砕かれた氷がシャーベット状になって、粉砕室内に付着した汚れを洗い流します。

7.「ピピピピピ･･･」と音が鳴って動かないときは

7



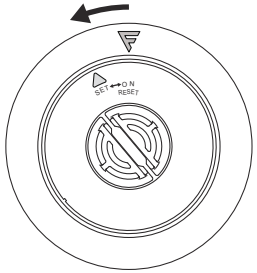
ディスポーザの電源プラグをコンセントに差し込んでください。

8

投入口にフタスイッチを挿入してください。

フタスイッチの「△」印を投入口の「▼」印に合わせて挿入します。

9



フタスイッチを左に回してください。

「ピー」とブザーが鳴り、過負荷保護装置が解除され、再運転が可能となります。

投入してはいけないもの

下記の物を投入すると、ディスポーザを破損したり粉砕できずに内部に残ります。

種　類	品　名　例	投入すると発生する不具合
金　属　類	スプーン、フォーク、王冠など	回転刃の損傷や動作不良など、ディスポーザの故障の原因となります。
ガ ラ ス 類	コップ、ビンの破片など	
陶　器　類	お皿、茶碗、箸置きなど	
かたい生ごみ	カニ類の殻、鯛など大きな魚の骨、かぼちゃ・柿・桃などの固い種、牛・豚・鳥の大きな骨など	粉砕されずにディスポーザ内部に残ります。
多量の魚や鶏の生皮	生魚の皮、鶏の皮、タコ・イカ丸ごとなど	
強い繊維質のもの	竹の子の皮、パイナップルの芯・皮、とうもろこしの皮、栗の皮、玉ねぎの皮、多量（両手一杯程度）の枝豆の莢、生花、花の茎など	ディスポーザ内部で粉砕されても、排水管内に堆積して詰まりの原因になります。
貝　殻　類	カキ、サザエ、アサリ、シジミなど	
高温のもの	熱湯、油、熱いカレーなど	ディスポーザや配管を傷めます。
油、薬品類	多量のマヨネーズ、多量の油、多量の酸・アルカリ性洗剤	ディスポーザ本体や配管を劣化させ、排水処理槽での処理を妨げます。
食品くず以外	割り箸、爪楊枝、ガム、プラスチック、ゴム、紙、ビニール袋、ラップ、アルミホイル、発泡スチロール、トレイ、キッチンペーパー、キッチンタオル、ティッシュペーパー、針金、石、砂、タバコの吸い殻など	ディスポーザ内部に残ったり、排水配管内に堆積して詰まりを引き起こす原因となります。

6. 運転のしかた

ディスポーザ運転のフロー

❶ 生ごみを投入する

❷ フタスイッチの「△」印を投入口の「▼」印に合わせて挿入する

❸ 給水を開始する

❹ フタスイッチを左に回す

ブザー（ピピッ）が鳴って運転開始

生ごみの粉砕終了検知

- ・生ごみの量が少ない時
- ・生ごみの量が多い時 又は、・生ごみの量が少ない時が５回続いた時

ディスポーザ　一時停止 粉砕室内に水溜（ピピッピピッ）

ダムフラッシュ（※1）

ディスポーザ　停止（ピーピーピー）

❺ 給水を停止する

❻ フタスイッチの「△」印が投入口の「▼」印に合うまで右に回す

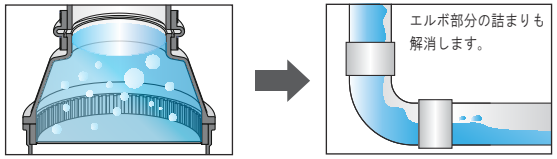
・・・・・ディスポーザが自動的に行います。

⚠警　告

生ごみの詰め込みすぎ、又は異物の噛み込みにより、運転が停止することがあります。
この時、過負荷保護装置が作動し、「ピピピピピ・・・」というブザー音で知らせます。
このブザー音が鳴ったら、フタスイッチの「△」印を投入口の「▼」印に合うまで右に回して止めてください。
噛み込み解除方法については１３ページを参照してください。

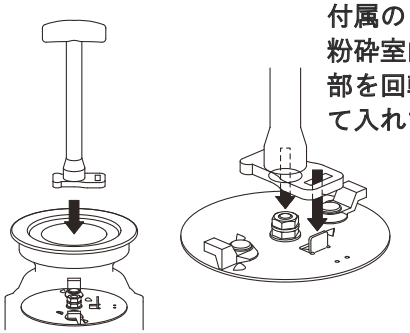
(※1) ダムフラッシュ

生ごみ粉砕後、ディスポーザ内に水を溜めて一気に排水することで、粉砕室内や排水配管の洗浄を行います。



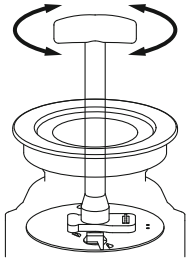
エルボ部分の詰まりも解消します。

4



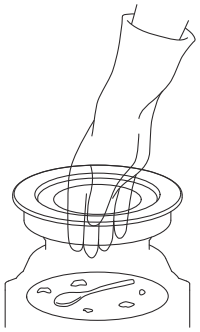
付属のロックハンドルを投入口から粉砕室内に差し込み、ハンドルの凹部を回転刃の中心のナットに合わせて入れてください。

5



ロックハンドルを左図のように左右どちらかに回してください。回転刃が軽く回るようになると噛み込みが解除されています。

6



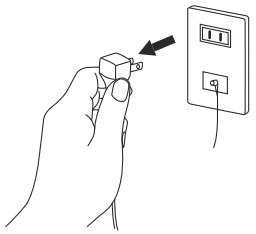
ディスポーザの粉砕室内部の異物を取り除いてください。

7.「ピピピピピ･･･」と音が鳴って動かないときは

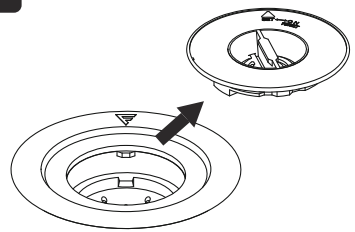
噛み込み解除の仕方

粉砕中に、かたい生ごみや、生ごみの詰め込みすぎ、スプーンなどの異物により噛み込みが発生した場合、過負荷保護装置が作動してディスポーザが停止します。この場合、「ピピピピピ･･･」というブザー音でお知らせします。
下記の手順で噛み込みを解除してください。

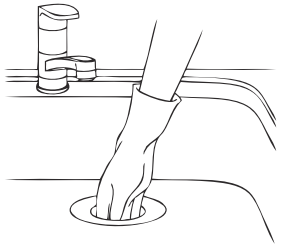
1 **ディスポーザの電源プラグをコンセントから抜いてください。**



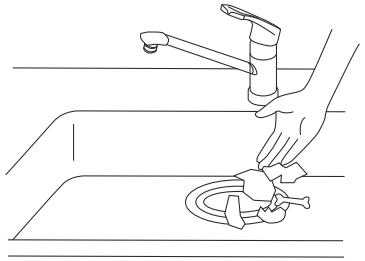
2 **投入口からフタスイッチを外してください。**



3 **厚手のゴム手袋などをして、投入口に手を入れて粉砕室内の生ごみをできるだけ取り出してください。**



1 **ディスポーザに生ごみを投入してください。**

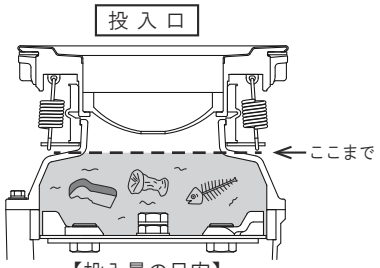


●このとき生ごみを多量に押し込まないようにしてください。下図の投入量の目安をご確認ください。

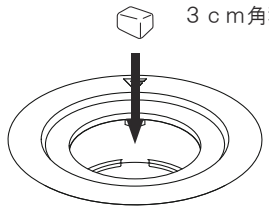
●大きい生ごみはあらかじめ３ｃｍ角程度に小さく切ってから投入してください。

●ディスポーザで処理できないものがあります。８ページの投入してはいけないものをよくご確認ください。

●単一生ごみを多量（両手一杯程度）に投入すると排水配管の詰まりの原因になることがあります。

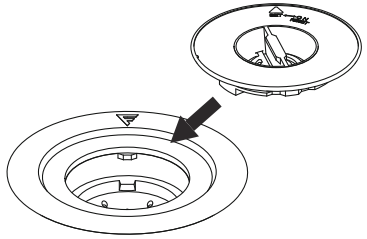


【投入量の目安】



2 **投入口にフタスイッチを挿入してください。**

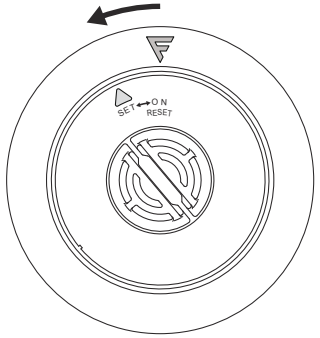
●フタスイッチの「△」印を投入口の「▼」印に合わせて挿入します。



3 蛇口を開けて水を流してください。

⚠注　意
水量の目安は親指の太さぐらいです。（6ℓ/分 以上） ※水の量が少ないと排水管内に生ごみが残り、排水管詰まりの原因になります。

4 フタスイッチを左に回して運転を開始してください。

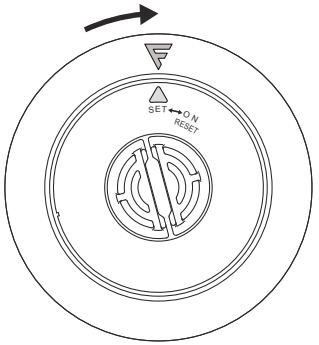


●フタスイッチを左に回すと、「ピピッ」とブザーが鳴ってディスポーザの運転が開始します。

●生ごみの量が多い時、粉砕が終了するとディスポーザは一時停止し、粉砕室内に水を溜めてダムフラッシュを行います。
「ピピッピピッ･･･」とブザーが鳴っている間は粉砕室内に水を溜めています。
ダムフラッシュが終了すると、「ピーピーピー」とブザーが鳴ってディスポーザが停止します。
※生ごみの量が少ない時が5回続いた時は、強制的にジェットフラッシュを行います。

⚠注　意	運転中に金属音や非常に大きな音がした場合は、ただちにフタスイッチを右に回して、運転を停止してください。
⚠注　意	過負荷保護装置が頻繁に働くような使用はしないでください。故障の原因になります。
⚠注　意	「ピピッピピッ･･･」とブザーが鳴っている間に水を止めないでください。ダムフラッシュによる洗浄が行えません。

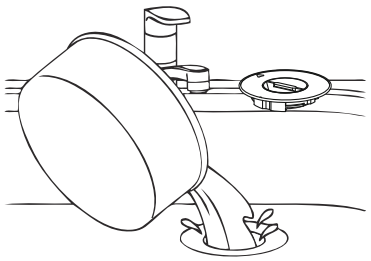
5 フタスイッチの「△」印を、投入口の「▼」印に合わせてください。



●運転が終了したら水を止めて、誤動作防止のためフタスイッチを右に回しておいてください。

⚠注　意	フタスイッチを外した状態にしておくと、スプーンなど異物が落下してしまう恐れがあります。

6 週に2～3回程度、洗い桶・鍋などに溜めた水を一気に流してください。排水配管を洗浄する効果があります。



●旅行などで長期間留守にされる際、お出かけの前にも溜めた水を一気に流してください。

⚠注　意	溜めた水を流す際は、ディスポーザのフタスイッチを外してください。 溜め水を流した後は、粉砕室内に異物が落下していないことを確認して、フタスイッチの「△」印を投入口の「▼」印に合わせて挿入してください。